

■ 掲示板

□ 国内外の関連会議情報

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの中止や延期が相次いでいます。

ご参加を予定している場合は、主催元のホームページ等で最新の情報をお確かめ下さい。

※8月に予定していた第17回日本加速器学会年会につきましても、オンラインによる9月開催に変更しております。最新情報は学会ホームページでご確認ください。

開催期間	行 事 名	開催場所	関連ウェブページ
2020年 8/30-9/4 <input type="checkbox"/> 延期	LINAC2020—The 30th LINAC Conference	Liverpool, UK	https://www.cockcroft.ac.uk/archives/tag/linac/
9/2-4	第17回日本加速器学会年会 (PASJ2020)	オンライン開催	https://www.pasj.jp/dai17kainenkai/index.html
9/8-11	高エネルギー加速器セミナー OHO'20	オンライン開催	http://accwww2.kek.jp/oho/oho20/index.html
9/13-17 <input type="checkbox"/> 延期	IBIC2020—The 9th International Beam Instrumentation Conference (9/14-18) (IBIC2020 Virtual Conference)	Santos, Brazil	https://indico.jacow.org/event/34/
10/4-9 <input type="checkbox"/> 延期	WAO2020—The 12th Workshop on Accelerator Operations	Barcelona, Spain	https://www.wao2020.com/
11/15-19 <input type="checkbox"/> 延期	ISSS9—The 9th International Symposium on Surface Science	サンポート高松 (サンポートホール高松&かがわ国際会議場) (香川県高松市)	https://www.jvss.jp/iss9/
2021年 5/23-28	IPAC21—The 12th International Particle Accelerator Conference 2021	Santos, Brazil	http://www.ipac21.org/
6/7-11	NP2020—Nuclear Photonics 2020	倉敷アイビースクエア (岡山県倉敷市)	http://www.photon.osaka-u.ac.jp/NP2020Kurashiki/index.html
8/9-11	第18回日本加速器学会年会 (PASJ2021)	群馬県コンベンション施設 G メッセ群馬 (群馬県高崎市)	
2021年	ICALEPCS2021—The 18th International Conference on Accelerator and Large Experimental Physics Control System	Shanghai, China	

□ 関連団体からの案内

■ 公益財団法人 高エネルギー加速器科学研究奨励会 奨励賞候補者募集要綱 (2020年度)

趣 旨：加速器ならびに加速器利用に関する研究において、特に優れた業績をおさめた研究者・技術者に次の4賞で構成される奨励賞を授与し、もって加速器科学の発展に資することを目的とする。

的とする。

各賞の応募条件：

西川賞：加速器ならびに加速器利用に関する実験装置の研究において、独創性に優れ、かつ論文発表され、国際的にも評価の高い業績をあげた、原則として50才以下(応募締切時)の単数または複数の研究者・技術者

小柴賞：素粒子研究のための粒子検出装置の開発

研究において、独創性に優れ、国際的にも評価の高い業績を上げた、原則として50才以下(応募締切時)の単数または複数の研究者・技術者
諏訪賞：加速器科学の発展上、長期にわたる貢献など特に顕著な業績があったと認められる単数または複数の研究者・技術者・研究グループ
熊谷賞：研究開発、施設建設など長年の活動を通じて、加速器や加速器装置への顕著な貢献が認められる企業の単数または複数の加速器関係者
表彰件数：4賞合わせて5件程度
賞の内容：賞金(各賞30万円)及び表彰盾(各課題毎)を授与する
選考方法：推薦のあった者について公益財団法人高エネルギー加速器科学研究奨励会選考委員会で選考し、理事会において決定する。

選考：2021年3月上旬

提出書類：(1)推薦書(当公益財団法人のホームページに掲載の様式による)(2)選考資料 研究業績に関する発表論文(3編以内)のコピー(各2部)

受付期間：2020年6月1日(月)～2021年2月26日(金)

書類の提出ならびに問合せ先：公益財団法人 高エネルギー加速器科学研究奨励会事務局
〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1
高エネルギー加速器研究機構内
TEL・FAX：029-879-0471
Eメール：info@heas.jp
ホームページ：http://www.heas.jp/

■会告

■第30回日本加速器学会評議員会議事録

日時：2020年4月12日(日)15:00-17:00

場所：ウェブ会議(Zoom)

出席者：羽島 良一(会長/量子科学技術研究開発機構)、宮本 篤(広報幹事/第9期評議員/東芝エネルギーシステムズ(株))、柏木 茂(編集幹事/第9期評議員/東北大学)、古屋 貴章(第8期庶務幹事/高エネルギー加速器研究機構)、西森 信行(第8期行事幹事/第8, 9期評議員/量子科学技術研究開発機構)、長谷川和男(会計幹事/第8期評議員/量子科学技術研究開発機構)、加藤 龍好(第9期庶務幹事/第8期評議員/高エネルギー加速器研究機構)、仲井 浩孝(第9期行事幹事/高エネルギー加速器研究機構)、岩下 芳久(第9期/京都大学)、上坂 充(第8期/東京大学)、浦川 順治(第8期/高エネルギー加速器研究機構)、大垣 英明(第8, 9期/京都大学)、大竹 雄次(第8期/高輝度光科学研究センター)、帯名 崇(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、加藤 政博(第9期/広島大学・分子科学研究所)、上垣外 修一(第8, 9期/理化学研究所)、神谷 幸秀(第8, 9期/高エネルギー加速器研究機構)、金正 倫計(第8, 9期/日本原子力研究開発機構)、栗木 雅夫(第8, 9

期/広島大学 大学院)、小磯 晴代(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、小関 忠(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、小林 幸則(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、阪井 寛志(第8, 9期/高エネルギー加速器研究機構)、坂上 和之(第9期/東京大学)、佐藤 潔和(第9期/東芝エネルギーシステムズ(株))、白井 敏之(第8, 9期/量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所)、仙波 智行(第8期/(株)日立製作所)、田中 博文(第8期/三菱電機(株))、田辺 英二(第8, 9期/(株)エーイーティ)、筒井 裕士(第8期/住友重機械工業(株))、徳地 明(第9期/(株)パルスパワー技術研究所)、飛山 真理(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、中村 剛(第8, 9期/高エネルギー加速器研究機構)、花木 博文(第8期/高輝度光科学研究センター)、濱 広幸(第8期/東北大学)、林崎 規託(第8, 9期/東京工業大学)、古川 和朗(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、増澤 美佳(第9期/高エネルギー加速器研究機構)、道園 真一郎(第8期/高エネルギー加速器研究機構)、山口 誠哉(第8期/高エネルギー加速器研究機構)

議事：

0. Zoom 会議にて開催し、音声に問題なく議事進

行に支障がないことを確認した。また、定足数を満たしていることの確認が行われた。

1. 宮本広報・ウェブ幹事より、広報委員会報告がなされた。

通常活動として、関連会議情報をウェブ掲載しているが、新型コロナウイルス拡大防止にともなう措置により、中止や延期されるイベントが相次いでいるため、情報を持っている方はお寄せいただきたいとの連絡があった。

オールラヒストリーの編纂とウェブ掲載については、第1回分が公開まで終了したところである。第2回分については現在編集作業中。第2回分まではパイロット版として有志数人で行ってきた。第1回分について会員にアンケートを求めるとともに、今後の継続をお手伝いいただく協力者を募る。

2. 柏木編集幹事より、編集委員会報告がなされた。

編集委員会のメンバーは変更がなく、学会誌もおおむね予定通り発行している。学会誌のバックナンバー公開について、J-STAGEの導入を昨年より検討しており、次の評議員会で報告予定である。

学会誌の広告掲載料と別刷り収入が減少していることについて、広報委員会と連携して検討を行っている。広告は評議員からの声掛けをお願いしたい。別刷りは減少の事情を調査予定である。

栗木評議員：特集号は学会外とのかかわりを示す良い機会として、一昨年度まで春の物理学会で特集号のテーマに関連したシンポジウムなどを提案していた。なぜ、昨年度は企画等を提案しなかったのか？

柏木編集幹事：特集号の編成が遅れてしまい、シンポジウムなどを提案する時間的余裕がなく申請に間に合わなかった。今後は著者の選考など時間的余裕をもって編集にあたるように注意する。

3. 古屋庶務幹事より、庶務幹事報告が行われた。

共催、協賛、後援状況と会員数の微増について、また入会申し込み者、滞納者について説明があった。滞納者について、2名の方について、参加評議員から情報が得られ、連絡を待つことになったが、他の方については評議員で連絡が取れ

る方には連絡をお願いし、連絡がとれない場合は5月末をもって退会とすることになった。

また、選挙を完了したこと、学会賞選考委員を「学会賞等選考委員」にすること、中性子連携TFの状況について説明があった。学会賞等選考委員会については、学会賞以外にも他団体の発行する賞で学会推薦枠があり、推薦内容を精査するため、選考対象を広げている。応募可能なものには積極的に応募していきたい。

続いて軍事研究TFの議長をつとめる浦川評議員より、TFの議論内容と、アンケートを行った結果の報告があった。アンケート結果としては、学術会議の声明は知っていても内容を知らないケースが多いこと、所属先での軍事的安全保障研究に関するガイドラインの有無を把握していない、議論の機会が欲しいという傾向がみられ、第17回年会在開催できた場合、自由討論を含めた特別セッション「加速器と安全保障」の枠を設ける計画である。事前準備として、議論のポイントとなりそうな項目について資料を用意しておくこと、所属機関としての肩書ではなく、あくまで会員としての立場で登壇することを前提としている。

羽島会長より、幹事会のメンバー交代と、会長代理候補を栗木評議員に指名することについて説明があった。

(会費滞納者の発表について)

羽島会長：会費を長期滞納している方が年会で口頭発表している件がみうけられる。滞納者の発表はできないようにすべきなどの措置が必要ではないか？

佐藤評議員：会費を滞納すると発表できないようにするためには、発表申し込み時に明記する等の対応をすべきであり、議論が必要ではないか。

中村評議員：会員は発表できると細則にあるため、会費未納を理由に排除はできない。

大垣評議員：会費滞納者の発表をオールラ発表に選ぶことはしない、というのなら正当な処置ではないか。

佐藤評議員：オールラ発表を申し込んだ会員について、滞納者かどうかを確認するのはどうか。

羽島会長：委員の負担を増やさないう、サー

キュラーに記載してお願いすることにしたい。
(軍事研究 TF について)

神谷評議員：筑波大学では防衛装備庁の公募に採択されて補助金を受け入れている。筑波大の方の話聞く機会を設けていただけないか？ 当事者となった方に説明いただけるならば、より良いと思う。

小関評議員：この TF での議論の着地点はどんなものを想定しているか。

羽島会長：学会の倫理綱領が制定された際に軍事研究については継続して議論することになった。学術会議がガイドラインの制定を求める声明を出したことにとも対応しているが、まだ議論が必要な段階であり、それも含めて検討していく。

ウェブ投票により、庶務関連の承認事項6件、入会申し込み、会費滞納者への対応、学会賞等選考委員の選出、年会企画セッション(軍事研究 TF)、幹事指名、会長代理候補指名、について過半数の承認が得られ、承認された。

4. 西森行事幹事より、行事委員会報告がなされた。

第16回年会での新しい試みとしては、企業展示でのスタンプラリー、萌芽的革新技術の提案のポスター掲示でショートプレゼンを設けたことがあり、どちらも今後継続予定である。また、これまで3日で行っていた年会を4日にしたことについて、タイムテーブルに関するアンケートを取った結果の報告があった。

続いて、松山での第17回年会について、新型コロナウイルス感染症に関連した影響の説明があった。現地開催ができなくなる可能性が高く、事前参加登録開始を3月30日から4月20日に延期している。開催方法を本評議員会で決定し、会員への周知を行ったあとに参加登録を開始したい。まず、現地開催のキャンセルにともなう費用として、1か月前までにキャンセルをした場合490万円、1週間前までの場合900万円、前日では1215万円の出費が算出されている。損害を考えると1か月前には確定の必要がある。

開催方法として、ウェブ上での発表を主体とするバーチャル開催とし、発表をする場合は参加費を必要とし、企業展示は一部キャンセル料として

返金、委員会はウェブ会議で行う等の経費削減策をとりたい。

神谷評議員：バーチャル開催とはどんなものか。

西森行事幹事：ウェブでの掲載のこととってよい。

小関評議員：IPACでは1年先送りするプランを検討していた。加速器学会では可能か？

西森評議員：検討はしていない。先送りは翌年の開催地にも影響するので難しいと思う。

小関評議員：完全にキャンセルは残念なので、松山で来年へ移行できるならばそうできるとよい。

岩下評議員：開催地の松山に、1年後に開催するのでキャンセル扱いにしないということが可能か、聞いてみてはどうか。

中村評議員(第17回年会組織委員長)：延期ということは考えていなかったもので、持ち帰って相談したい。

大垣評議員：現在の新型コロナウイルスの蔓延状況から考えると、8月の現地開催は無理と言ってよいと思う。

大竹評議員(第17回年会プログラム委員長)：できない可能性が高いと思うので、この評議員会で結論が欲しい。

中村評議員：この評議員会でウェブ開催を決定すれば、発表をオンライントークで設定するための、準備時間が設けられる可能性がある。

栗木評議員：もし1か月前まで結論を待って、運よくコロナウイルスが終息して現地開催できるようになったとして、大学では春にできなかった講義を夏にずらす等のスケジュール変更が生じており、参加する予定だった人ができなくなっている可能性も高い。

岩下評議員：急に開催できることになった場合、自粛期間に研究を進めるのは困難であり、発表の準備が間に合わないのではないか。

佐藤評議員：1か月前では、一般参加者のみならず、企業での参加準備も難しいと思う。

大竹評議員：運営側としては、早めに結論を出したい。

上坂評議員：自分の所属する東大では不要不急の場合は研究施設に来ないようにという指示が出ている。JAEAなど、他の施設の実験は許容さ

- れているのだろうか？ 実験が主体で発表をしている人は厳しい状況と思う。
- 神谷評議員：KEKは通常通り運転だが、放射光施設は夏前の運転を停止している。提案の方向でいいと思うが、バーチャル開催とする場合の判断基準はどこにあるか。
- 羽島会長：自治体や大学・所属機関の状況をみて判断することになる。
- 大竹評議員：運営側としては、発表申し込みが少なければ諦めた方がよいとは話している。仮に現地開催ができたとして、そこから現地での発表となった場合、躊躇する人もいると思うので、ウェブ開催にした方が参加者が増えるかもしれない。
- 上坂評議員：学生や業績が必要な立場の人からすれば、ウェブ上の発表でも業績になるのではたほうがよい。
- 大竹評議員：バーチャル開催としてもらえるとありがたい。
- 徳地評議員：5月まで決定を先送りする意味があるだろうか？ 早めのアナウンスがよいのでは。
- 羽島会長：オンライントークの実現可能性はどのくらいあるか？
- 中村評議員：原理的にはZoom等でオンライントークを設定可能と思われる。
- 佐藤評議員：すでに世間的には夏のイベントも中止を決定しているものが多く、開催は現実的ではない。早めにウェブ開催に決定した方がよいと思う。
- 小関評議員：J-PARCの8月末の公開は非常事態宣言を受けてキャンセルになった。現実的にはむずかしいと今の時点で判断できる。
- 神谷評議員：参考までにKEKの一般公開は未定であり、全てが中止というわけではない。
- 羽島会長：第18回年会開催予定地の高崎での会場費支払いはまだなので、松山を来年にするという検討は可能かもしれない。
- 大竹評議員：来年も第17回年会の運営体制で準備を行うとすると2年間継続は担当者の負担が厳しいが、これについてはどうか。
- 中村評議員：プログラム委員に関しては1回分の年会プログラムの検討を行うための委員会であり、交代で問題ないと思われる。ほかの委員は現地のことを把握している関係で、継続いただきたい。
- 大垣評議員：ほかの委員、増田実行委員長も2年は結構負担だと思う。
- 大竹評議員：増田実行委員長の負荷は現時点でかなり厳しい様子である。
- 岩下評議員：中村組織委員長の負担は？
- 中村評議員：継続でも交代でも問題ない。
- 栗木評議員：実際に1年延期して松山での施設使用料が来年にスライドができるかを確認してからの議論がよいと思う。委員が継続できるかなども別途検討すべき。
- 中村評議員：持ち帰って議論する。
- 西森評議員：そもそも、年会は組織委員会で決定すべき事項であり評議員会ではない。組織委員会の了解が必要ではないか？
- 神谷評議員：組織委員会の了解は必要。メール審議でよいと思う。
- 濱評議員：バーチャル開催は良いと思うが、8月の頭までに発表準備が満足にできるかどうかは疑問。
- 中村評議員：秋にする等の検討をすべきだろうか？
- 佐藤評議員：さらに状況が悪化した場合、バーチャル開催すらできない可能性があるか？
- 羽島会長：ウェブ上でやる分には成立できるのではと思う。
- 白井評議員：いまのサーキュラーでは締め切りは5月11日となっている。自粛期間と重なっているため、学校や施設の状況で、応募すらできない人がいると思う。開催時期を遅らせることを前提とした方がよいのではないか。
- 岩下評議員：遅らせるとすれば、いつその時期を決めるのか？
- 栗木評議員：すべての施設・大学等が共通して都合のよい時期を設定するのは難しいと思う。それよりはオンラインでの開催というメリットを生かし、発表者の都合にあわせるなど柔軟に対応するのはどうか。特定の3日に設定する必要もないと思う。
- 濱評議員：今後必要な準備を考えても、「現地開催はせずバーチャル開催にする」という点につ

いて、この評議員会でとりあえず結論を出すべきである。詳細な開催方法については情報も不足しており、今議論すべきではない。

大垣評議員：詳細については組織委員会や実行委員会で決めてもらうべき。

岩下評議員：バーチャル開催の場合、ポスター発表はどのようになるか？

中村評議員：オンライントークで対応が可能であり、コアタイムに設定した時間だけ待機するよう考えている。

議論の結果、第17回年会はバーチャル開催（WEB掲載と、可能であればオンラインでの議論も検討）とし、参加申し込みを受け付けること、詳細は組織委員会・実行委員会で検討することが決定した。

続いて、「加速器学会年会・合同セッション、企画セッションおよび特別講演に関する規定」が承認された。また、西森行事幹事より、第15回年会での経費に国際文献社からの請求漏れがあり、本会計から支払ったこと、第16回年会の決算にもその分の費用が遅れて追加されたことが説明された。

5. 長谷川会計幹事より、会計に関する報告がなされた。

監事の選任について、昨年に選出がなされていなかったことについて説明があり、すでに評議員にメール審議を依頼したところ、前回監査いただいた大熊氏、早川氏から内諾済みであるため、この評議員会で推薦とし、2020年4月から2年間の任期として8月の総会で承認を得ることになった。今後、審議漏れがないよう、チェックリストを作成する。また、監査の方法については、非常事態宣言のため、ウェブ会議形式で行うことも可能であることが承認された。

続いて、2019年度会計の決算案、2020年度会計の予算案の提示があり、2019年度決算の赤字は1万6千円程度に収まっているが、各所で努力を行った結果であり、赤字傾向が続いているとの説明があった。2020年度予算については、現時点で50万円程度の赤字が予想され、第17回年会が開催できなかった場合はさらに赤字額が増える見込みである。

2019年度会計決算について仮承認された。こ

の決算内容に基づいて納税申告の準備を進め、5月中旬に監事監査を行い、評議員会のメール審議にて本承認を求めるスケジュールが説明された。

羽島会長より、年会費の値上げについて、会員種別ごとに2千円程度増額の提案があった。これについて、会員、企業ともに2千円程度の値上げならば妥当との意見が多かったが、学生会員については実質2倍になってしまうため、1千円の値上げにとどめる。次の総会で承認を得、可能であれば2021年度会費から適用をすることになった。

6. 上坂評議員より、Elsevier社から刊行予定のAccelerator and Medical Physicsの編著について、日本加速器学会と日本医学物理学会に依頼が来ていることが説明された。スケジュールとしては、2021年7月に原稿締め切り、2021年中に発行を目指す予定である。両学会から10名ずつ選出し、編集委員会を設定したい。

羽島会長：加速器ハンドブックの時のように、学会から金銭的な支援が必要か？

上坂評議員：ボランティアベースで考えており、会議もウェブでいいと思う。

中村評議員：資料に4300USドルとある。

上坂評議員：例に出したComprehensiveは百科事典なので、編纂予定のものは数千円から1万ぐらいになると思う。

羽島会長：会長と上坂先生で相談の上、協力いただければいい方に依頼し、準備に入りたい。

（そのほか）

帯名評議員：年会をバーチャル開催とする場合、総会の開催方法はどうか？

羽島会長：委任状とWeb会議を利用した開催を検討するが、まだ白紙である。

■会員移動（2020年4月～6月）

〔一般会員入会〕

青木 希（ニチコン草津株式会社）

荒木 隼人（高エネルギー加速器研究機構）

生駒 直弥（株式会社パルスパワー技術研究所）

Ersin Cicek（高エネルギー加速器研究機構）

門脇 琴美（高エネルギー加速器研究機構）

狩野 悠（入江工研株式会社）

神谷 富裕（群馬大学大学院）

菊地 貴司（高エネルギー加速器研究機構）

酒井 泰雄 (大阪大学産業科学研究所)
Zachary Liptak (広島大学)
佐々木 明日香 (東日本機電開発株式会社)
佐藤 福克 (日本原子力研究開発機構)
高見 豪 (横河電機株式会社)
田丸 哲也 (関東情報サービス株式会社)
西田 賢人 (株式会社日立製作所)
蛭海 元貴 (住友重機械工業株式会社)
廣瀬 雅哉 (関東情報サービス株式会社)
福西 暢尚 (理化学研究所)
藤森 弘之 (ニチコン草津株式会社)
藤原 康宣 (一関工業高等専門学校)
松田 洋平 (東北大学)
溝端 仁志 (高エネルギー加速器研究機構)
森 威男 (ニチコン草津株式会社)
森山 将希 (ニチコン草津株式会社)
山口 英俊 (産業技術総合研究所)

[学生会員入会]

荒本 真也 (広島大学)

尾関 政文 (東京大学大学院)
小野 真聖 (東京大学大学院)
小杉 直 (名古屋大学大学院)
金野 舜 (広島大学)
齋藤 真慶 (東北大学大学院)
荘 浚謙 (大阪大学核物理研究センター)
中尾 海斗 (名古屋大学大学院)
野口 恭平 (九州大学)
久松 万里子 (大阪大学核物理研究センター)
宮武 立彦 (九州大学大学院)
楊井 京輔 (茨城大学)
山田 逸平 (日本原子力研究開発機構)
魯 ヨウ (高エネルギー加速器研究機構)

[賛助会員入会]

株式会社サンナノテクノロジー

株式会社ナバテック

[個人会員退会]

1名

■編集後記

編集委員5年目にして編集後記のお鉢が回ってきました。いつもは編集委員として記事をお願いして書いてもらう立場であるわけですが、今回は文章を『お願いされる』側の気持ちを味わいながらこの編集後記を書いています。

本号では、ホットな話題としては、イオン源国際会議の会議報告、及びサイクロトロン国際会議の会議報告を担当しました。会議の熱気が伝わるだけでなく、著者の人柄がにじみ出る文章を一足早く楽しませていただきました。

また、それと並行して、逆に非常に歴史的価値のある記事、近藤道也先生による阪大における戦後サイクロトロン建設の歴史、及び核物理研究センターの創設の歴史についての記事の担当もしました。この記事を執筆していただくにあたって、関係者の多くが鬼籍に入られていることもあって、執筆者の近藤先生には核物理研究センターや豊中キャンパスに眠る膨大な資料を紐解いたうえで、史実に基づいた文章を記述いただくという多大な努力をはらっていただきました。そのことも

あって、実は当初掲載を予定していた号より3号ほど遅くなったの掲載になってしまったのですが、読み応えのあるものが出来上がってきたのではないのでしょうか。なお、この記事では古い写真にも苦勞しました。例えば、添付の図に1950年代の荷馬車に引かれるポンプの画像というのがありますが、当時の記録として撮影された8mmフィルムから起こしたもので、解像度が非常に悪いです。逆に想像力を掻き立てられることを大いに期待します。

その他にも多くの学会員の皆様から記事を寄せていただいています。COVID-19による自粛などの影響で、業務等にいろいろと支障など出ているであろう中、多数の記事の執筆をいただいたことには、感謝の念に堪えません。

学会員各位の研究がコロナに負けず発展することを祈念いたします。

大阪大学核物理研究センター

依田 哲彦